

心理学部心理学科 教育課程編成・実施の方針

<カリキュラム全体の方針及び構成>

心理学部の教育課程は、幅広い視野をもって総合的な知を身につける全学共通科目と、心理学の専門的な知識及び技能をもって社会に貢献できる人材を養成する学部固有科目で構成する。卒業要件単位は全体で 124 単位であり、そのうち専門教育課程を構成する学部固有科目の卒業要件単位は 72 単位である。また、履修者の関心に応じて全学共通科目と学部固有科目の両方から自由に選択できるフロート単位が 8 単位設けられている。

<専門教育課程の概要>

心理学部は、実験心理学領域、応用心理学領域、臨床心理学領域、発達心理学領域という 4 つの領域で構成されている。専門教育課程では、1 年次は心理学全般を学ぶ概論的な科目と導入教育的な科目を中心とし、2 年次に先のビジョンを持てるような各領域の概論と方法論について学ぶ。3 年次にはゼミに配属されて専門の知識と技能を身につけ、4 年次にはそれらを使いこなして卒業論文を仕上げることで必要な能力を実際に生かすことができるようになる。

<専門教育課程の方針及び構成>

心理学部の専門教育課程は、学位授与の方針に基づく以下の 5 つの方針に従って学部固有科目により構成される。

1. 心理学とはいかなる学問であるのか理解し、「学び方」を学ぶことができる初年次教育から、2 年次以降に専門的な知識及び技能を徐々に積み上げていく構成とする。
2. 人間の心理、行動、多様性、生涯過程に対する理解を促進する専門科目を構成する。講義科目による多様な知識の蓄積に加え、それらの知識を実践に生かす力の獲得を旨とした実習科目を充実させる。また、国際社会においても知識及び実践力を発揮できるよう、英文を講読する演習科目や海外演習等を配置する。

3. 心理学のデータ収集法及び情報処理技術を、倫理的な態度で適切に扱うことができるように方法論に関する科目も充実させる。また、心理学の方法論を幅広く他分野とも結びつけて使えるよう、ゼミ配属後も分野を横断した科目選択を可能とする（実習科目も含む）。
4. 学修成果を現実社会の様々な問題の解決に生かせるよう、個人又はグループで課題に取り組むことを主とする演習形式の科目を配置するほか、自らの問題意識に沿ってテーマを策定し、計画的にデータを収集・分析して成果を論文にまとめる卒業研究を必修とする。
5. 心理学の専門知識・技能を卒業後の活動や社会貢献と関連づけられるよう、ゼミ配属前からキャリア関連の科目を配置する。また、心理学を修めた者として意欲的に社会と関わる人材を育てるため、カウンセリング関連の科目を始め、どの領域においても対話力の向上を重視する。
6. 公認心理師の受験資格を得られるための、必要な講義及び演習・実習科目を設置し、心理学に基づく専門職業人としての確かな基礎的素養を身に付けることを可能とする。